

授業方法について独自に工夫していること 【教育科学系】

- ・どの授業においても、学生に資料を配布するだけでなく、授業内容に関係する映像や実践的研究を紹介し、学習内容の定着を図った。
- ・毎時間、エクササイズあるいはグループディスカッションを取り入れ、机間巡視や各グループの意見聴き取りを実施した。

毎回授業の中で、小課題(レポート)を出して、出席をとっている。

受講生が講義に対して受け身にならないように、ワーク課題等を導入して、できるだけ主体的に取り組めるように配慮した。

- ・事例紹介などを通して、受講生が実践的な考え方に触れる機会を持てるように心がけている。
- ・小説に描かれた児童生徒の姿から、学校適応を巡る現代的課題、教師に求められるかわりについて考えを深めることができるように工夫している。
- ・適宜、受講生相互のディスカッションの時間を設けている。

- ・授業内容を自身の実践を基にパワーポイントで作成し、プレゼンしている。
- ・座席は指定し、その座席でグループを作らせるようにしている。私語の防止と偏りのない仲間づくりのため。
- ・講義では、聞かせるだけでなく、指名発言させたり、大学探検、生活科の教材づくりのためなどでフィールドワークさせたりしている。また、学生にはフィールドワークで収集した情報をグループごとに整理させ、プレゼンとして発表させている。
- ・学校現場で役立つように、学習指導案を作成させたり、模擬授業もグループ毎にさせたりしている。模擬授業については、質疑応答などで討議させ、必ず自他ともに発表から何を学んだか振り返りカードに書かせるようにしている。
- ・講義形式の授業の後には、次時に小テストを行ったり、レポートで考察させるようにしている。
- ・筆記試験の際、大学からのアンケートだけでなく、試験問題の最後に学生自身の学びの成果と課題を書かせ、本講義に対する感想や要望を書かせるようにしている。これらを自身の授業改善に役立てようと考えている。

ありふれた工夫だが以下のことを心がけている。

- ・コメントペーパーにより学生の意見を拾い、有益と思われる意見は次回の授業時に印刷・配布する。
- ・講義中でもできるだけ問の投げかけと机間巡視を行い、学生に意見を発表してもらう。
- ・ペアワークやグループワークを取り入れる。

15回の授業内容がバラバラにならないように、一つのテーマを複数回で学んでいく構成にしている。前回の授業内容が今回の授業内容にも出てくる、という構成にしていくことで、重要な内容を単発の授業で覚えて終わり…ということにならないように心がけている。

また、教科外活動という特質上、小グループの活動をほぼ毎回取り入れるようにしている。必ず全員が発言し、レスポンスするように、討議するテーマについての内容をプリントに書き込み、考えを整理させた上で、グループ討論の時間を設定する。

道徳が教科化される観点から、実践的に全員模擬授業に参加してもらい、道徳教育の意味、授業の進め方、子どもの道徳性の発達の特徴を理解しそれに基づく指導などについて考えてもらうようにした。特に、後半の模擬授業に関しては小学校で行っている実践例をビデオによって紹介した。その上で数名から成るグループを形成し、教材の作成と指導案の作成を行い、一班45分による全員参加の模擬授業を実施し、終了後学生間の意見交換や教員からの講評を入れることによって、より具体的実践的な理解を深めるように配慮した。

・生徒指導・進路指導について、これまでの学習内容を現場でどのように活かしていけるのかを考えられるような内容にしました。
・できる限り、映像や話し合いを取り入れ、実践の場面をイメージできるようにしました。
・グループディスカッションを複数回実施することを通じて、多様な価値観に触れ、自身の視野を広げたり、議論することの意味を体感できるよう工夫しました。

座席指定、3～4人でいろいろな学生と話し合いができるように、毎時間座席を変えている。
・学校現場での経験を生かした話を取り入れている。
・毎回プリントを用意し、出席チェックを兼ねながら提出させている。学生の感想や意見などに対し、必ずコメントを書いて次時に返却している。
・学習指導要領の内容を理解してもらうために、資料を通して考えさせている。
・授業の始めに、季節を感じる話題を取り入れている。
・学生の感想や疑問の中で共通理解したい事柄については、次時の授業の導入時にコメントしている。
・指導案作成には、5時間使って段階的に書かせている。
・授業の最後には、生き方を考えさせる映像を取り入れている。

教職の意義や教員の役割、職務内容を養護教諭に特化して知識・理解を修得していただきたいことから、具体的なイメージを提供することに努めた。開講時に学生自身が持っているイメージを確認してもらった。VTR視聴や現場(小・中・高・特別支援学校)の養護教諭の講話を取り入れ直接話すことができる機会の提供、ロールプレイングなど具体的で身近に養護教諭像を掴めるように努めた。養護教諭は幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等校種の異なる学校等に勤務するため様々なニーズがあることと、教員として又養護教諭としての基礎基本の役割とを総合的に理解する意欲が喚起できればと考えた。

① 視聴覚教材を可能な限り取り入れていること
この授業は、1年生を対象にした「教職に関する科目」であるため、教師の日常生活の様子、教師という仕事のやりがいや大変さなどをわかりやすく伝えられるよう、ドキュメンタリーなどの一部を流すようにしている。
② コメントカードのフィードバックをしていること
学生たちには各回の終了時に、授業の内容に関わる課題について考えたことや話し合った結果などを整理し、コメントカードを書いてもらっている。次回の授業開始時に、その結果や共有したい意見等をあげるようにしている。

授業では、講義中心の授業ばかりにならないように、課題についてグループでの話し合いを行い、意見交流をするようにした。また、一部ではあるが、課題を提示し、調べ学習をさせるよう工夫した。

映画、TV番組、マンガ、音楽、絵画資料など、様々なメディアを使用して教師について考察した。「教師とは？」と直接考えることが困難なためであり、教師のブーメラン効果によって、自分に突き刺さってくる授業題目なので結果的にこうなったともいえる。

・演習を中心とした授業展開を行い、個人活動およびグループ活動を通して学生自らが考え、実践することによって授業内容について理解できるように配慮した
・「遊び」の形態を伴う活動により、保育へ応用しやすいよう配慮した・授業の事前準備および振り返りの課題により、授業内容の定着を図った

グループディスカッションを取り入れているが、苦手とする学生が多くいるので、準備ができるように次の授業で話し合う事柄を事前に伝えた。

ただ単に、知識の伝達だけではなく、アクティブラーニングを取り入れ、学生の主体的な参加で成り立つような授業構成にしている。また、受講者が教育実習前なので、学生同士が、模擬授業とそれに対するアドバイスを行うような授業展開をしている。

公立幼稚園での実習を組み入れています。履修学生全員が、年少児・年中児・年長児全てのクラスにおいて、子どもと遊びを通して学べることは、当該授業の特徴です。開講時期は1年の後期ですが、今後、本格的な実習に臨む前に、子どもと触れ合い、子どもの姿を実感できることは、学生にとって必要な経験だと思っています。

① 視聴覚教材を可能な限り取り入れていること

この授業は、1年生を対象にした「教職に関する科目」であるため、教師の日常生活の様子、教師という仕事のやりがいや大変さなどをわかりやすく伝えられるよう、ドキュメンタリーなどの一部を流すようにしている。

② コメントカードのフィードバックをしていること

学生たちには各回の終了時に、授業の内容に関わる課題について考えたことや話し合った結果などを整理し、コメントカードを書いてもらっている。次回の授業開始時に、その結果や共有したい意見等をあげるようにしている。

授業スタート時に行うアンケート結果から、学生の生活科の教科についての認識が個々によって様々である。小学校で実際に経験した「遊んでいるみたいで、楽しかった」「外での活動が多くて、勉強みたいじゃなくて生活科は好きだった」というものが多く、中には生活科がどんな教科だったか忘れてしまったとか、何かを作って食べたから家庭科と思い込んでその違いはなんですか？と質問してきた学生もいた。低学年1, 2年生の教科なので当然の結果ではあるかもしれないが、学生には、小学校での生活科の重要な役割について理解してほしいと考える。生活科は教科であるから、ねらいもあり内容もある。学習指導要領にある理解だけではなく、生活科の特性をより具体的に学生自身が理解できるように、体験や実際の現場での授業の様子をたくさん見ることができている授業を行っている。体験を通し、教師の立場と子供の立場で考えを深め、納得した理解を目指している。また、現場での授業のビデオ視聴は、実際の生活科の授業の様子や、授業から見える子供の姿や成長の過程を子供の言葉や記録から、わかりやすく解説している。

・学年の違いを意識し、理論と実践のバランスを考えている。

・講義と活動のバランスを考えている。

・適宜、生活科の授業の写真、DVD等の視聴覚教材を使用し、実際の授業をイメージしやすいようにしている。

・単元の構想、授業の展開、教材研究、指導や支援の仕方を、受講生自らの体験活動を通して習得できるように努めている。また、自ら探究と協同するために、個人だけでなくグループの活動も積極的に取り入れた。

オリエンテーションを含め、毎回の授業で全15回の流れを示し、各回の位置づけを示している。また、各回の内容について構造的に表したものを使いながら、1時間の流れを説明してから授業に入っている。

講義の内容に関しては毎回スライドの出力を配布し、スライドを書き写すといった手の運動はせず、講義の要点や例えとしてあげた事柄を書き取ることで深い理解を行うよう求めている。

講義の最後には振り返りシートの提出を求めているが、単なる感想は受け付けず、講義を聴きながら一歩進んで考えたことや、発展的な疑問として浮かんだことを書くよう求めている。特に、講義が聴き終わってから思考をはじめすることを戒めている。また、講義の内容について思考を求める課題を出し、回答を求めるようにしている。

・自身の実体験による事例(小中学校の生徒指導・教育相談・スクールカウンセラー)をシラバス内容にそって紹介し、「予防・開発的な生徒指導」に効果のあるコミュニケーションスキルの演習を二人組、四人組で毎回、20分ぐらい行った。(教育カウンセリング、構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキル、アサーショントレーニング など)

・「五感で学ぶ」ことをめざし、言語、非言語的コミュニケーションを駆使してお互いの自尊感情が高まるエクササイズを実践した。

・受講生の科の教育現場における特性を活かした「関わり方」を常に意識しながら具体的な事例をもとにチーム支援の方法、あり方を考えた。

・子どもたちを取り巻く教育環境、背景にある家族の現状をふまえた適切な対応の育成をめざして「教育」に関わる新聞記事を毎回紹介した。

・受講する科の学生の特性をふまえて教育現場にたった時を想定して、学級経営に役立つコミュニケーションスキルを毎回20分程度、演習として行った。
・シラバス内容に副って自身の実体験による事例を多々とりいれ、また「予防・開発的な生徒指導」として効果のある教育カウンセリングの手法をとりあげた。
・学生自身の自尊感情が高まるよう「五感で学ぶ」ことをキーワードとして「傾聴」をベースに、「教師自身」のメンタルが大切なことを感情体験によって習得する場を設けた。

・教育現場に実際にたった時を常に想定しながら、毎回、学級づくりに役立つコミュニケーションスキルを演習で行った。「五感で学ぶ」をモットーに二人組、四人組の対話を重視し学生自身の自尊感情が高まる感情体験の場を設定し、学力保障は成長保障と補完しあって教育効果があがることを体験的に学ばせた。
・シラバス内容に関連した、課題(小論文)を、数回提出。
・「教育」に関わる最新の新聞記事を毎回紹介した。
・DVD(1986年 学校)を視聴させ、「教師の使命」「生きがい」「幸福とは」「関わり」などをキーワードとして理想の教師像に迫り、小論文を課題とした。 ほか

1年生対象の授業なので、取り組みやすく達成感を味わえるような授業内容や課題になるように心がけている。
具体的には、一人ずつ人前で立って絵本を読み聞かせること、次にはセリフなどを覚えて自分が作成したパネルシアターを人前で演じることなど、保育者への実践力育成の第1ステップであることを学生自らが自覚し取り組めるようにしている。人前で演じたものに対しては、受講生同士で褒めたり助言したりすることを通して、仲間として力量を高められるように工夫している。また、言葉の発達理論においても、絶えず実践力を育成する観点から具体例を多く取り入れるようにしている。

毎回、ひとつのテーマを設定してグループで集団討議を行った。また授業後にはコメントを書かせ、複数のコメントは板書のコピーとともに次回の授業時に配布した。

・毎回、ミニツツペーパーを書かせ、次回授業のときに復習を兼ねて8人程度取り上げ、全体で質問等を共有している。
・PPTのスライドに、教員採用試験も意識して「まとめ」の部分をつくり、復習として学生自身に穴埋めを回答させている。
・現職教員に対してインタビューをしてレポートを作成し、共有している。
・アクティブラーニングとして、ワールド・カフェとOSTの手法を用いて、15回中2回ほど議論・発表をさせている。
・レポートは、評価をつけて全員に返却しており、希望者については詳細なコメントをつけている。
・視覚的理解させるため、映像資料を多く用いている。

・毎回、ミニツツペーパーを書かせ、次回授業のときに復習を兼ねて8人程度取り上げ、全体で質問等を共有している。
・PPTのスライドに、教員採用試験も意識して「まとめ」の部分をつくり、復習として学生自身に穴埋めを回答させている。
・問題解決型生徒指導や進路相談に関するロール・プレイを3回ほど実施している。
・アクティブラーニングとして、OSTの手法を用いて、15回中1回ほど議論・発表をさせている。
・レポートは、評価をつけて全員に返却しており、希望者については詳細なコメントをつけている。
・視覚的理解させるため、映像資料を多く用いている。

- ・毎回、ミニツツペーパーを書かせ、次回授業のときに復習を兼ねて8人程度取り上げ、全体で質問等を共有している。
- ・PPTのスライドに、教員採用試験も意識して「まとめ」の部分をつくり、復習として学生自身に穴埋めを回答させている。
- ・学級活動・ホームルーム活動の指導計画をグループで立てさせ、模擬授業と相互評価を行っている。
- ・模擬遠足の指導計画を立てさせ、プレゼンテーションをさせた後に、学外にて実際に活動を行わせている。
- ・視覚的理解させるため、映像資料を多く用いている。